



在京古高同窓会会報 第25号

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-15-3
ブリメーラ道玄坂110号
信陵会館内
在京古高同窓会事務局
☎ (03) 3462-1225
FAX (03) 5489-1358
発行責任：春田 紘輔
編集責任：萩沢 一
編集長：千坂 孝一
印刷：(株)ケーヨー

ご挨拶

会長 伊藤 宗一郎



在京古高同窓生の皆様には益々のご活躍何よりとお慶び申し上げます。

皆様には御多用の中、同窓会活動にご尽力をいただき厚く御礼申し上げます。

私は、衆議院議長として三年九ヶ月恙なく激動の国会運営の大役を全うすることができました。これも一重に皆様方から賜りました温かいご支援のおかげと心から感謝

謝の誠をささげます。

私達の故郷大崎の地は、今も豊かな自然に恵まれた歴史的な伝統に守られております。ここに育てられた共通の価値観を忘れずに郷土愛をしっかりと確かめあつていきたいと思ひます。

私が会長に推されてから二十数年が経過致しました。その間皆様のご厚情ご支援ご理解に心から敬服致します。また会務のためにご尽力下さった役員の方々には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

在京同窓会の今後を思うとき、私は新しい世代の方々にバトンタッチをしたいと考えました。勿論、私は会員の一人として会の発展を願う立場に変わりはありません。長い間皆様のご協力に深謝申し上げ、母校発展のため、又同窓会の皆様様の益々のご活躍を切望してご挨拶とさせていただきます。

在京同窓会メモ

- ・信陵会館は井の頭線渋谷駅線路沿いです。
- ・会計年度は6-5月、年会費は2,000円です。
- ・会の健全運営のため、同封の振替用紙での納入をお願い致します。
- ・次回会報第26号は2001年1月1日発行予定。

「校名看板」

古川高等学校長 大沼 康哉



平成十二年度が始まったと思っているうちに、梅雨の季節を迎えています。大崎耕土は緑一色になり、日暮れとともに遠くから蛙の合唱が聞こえ、時は昔も今も変わりなく、ゆつたりと流れています。

故郷を離れ、関東地方にお住まいの同窓の皆様におかれましては、ますますご壮健にてご活躍のことと存じます。昨年度は母校のため数々のご指導やご厚情を賜り衷

心よ）礼申し上げます。

去る五月二十六日、古高恒例の船形山の遠足（一学年）が行われました。小生も同行し、久々にブナ林の空気を満喫してきました、と書きたかったのですが、実際は常々の運動不足がたたって、すっかり疲労困憊し、足を引きずりながら学校に戻りました。帰校すると丁度、同窓の千葉照男さん（古高第二十回卒の彫刻家）が学校にお見えになっていました。ようやく念願の新しい正門の校名表記板（看板）が完成し、学校へ搬入したところでした。高橋義宣先輩（古高第六回卒）が苦勞して探しと探した一枚板に伊藤宗一郎衆議院議長の手書きによる「宮城県古川高等学校」という校名が黒々と浮かび上がり、見事な出来映えでした。



の歴史と共に風雪に耐えてきた看板は、防腐処理を施し大切に保存させていただきます。帰郷の際は気軽に母校にお越し下さい。新しい看板を見ながら、皆様の在学当時のお話などを伺えれば幸甚です。古高は皆様の学校です。

本校は、今春三〇八名の卒業生を世に送りました。今度の卒業生は記念すべき古高創立百周年の年に入学し、二〇世紀最後の卒業生となりました。文武両面において活躍し、低迷が続いた古高に復活の手がかりを与えてくれた卒業生でもありました。どうか後輩をよろしくお願い致します。卒業式当日は、在京同窓会春田副会長のご臨席を賜り、堂雪賞の授与や力強いお励ましを頂き一同感激致しました。お忙しい中、遠路わざわざご来校下さいましてありがとうございます。心より御礼申し上げます。

学校の近況につきましては事務局より報告させていただきますが、現在本校では進学を中心にいろいろな面で、低迷状態を克服しようと努力しています。お陰様で幾分復活の兆しが見えかかってまいりました。今、大切なことは、何が古高低迷の原因となっていたのか冷静に分析し、反省するとともに、勇気を持って改めていくことだと思ひます。少子化の波が大崎地区にも押し寄せ、今秋には、高校の統廃合や男女共学の構想等の具体案が示されようとしています。時代の大きなうねりの中で古高も大きな転機を迎えています。同窓の皆様の一層のご支援をお願い致します。最後になりましたが、皆様の御健勝と在京同窓会の発展をお祈り致します。

千葉さんのお話によりまして、文字の黒い部分はカシユウという耐久性のある塗料を施したそうです。三度防腐剤で処理し、その上に茶色がかつた塗装をしたそうです。約二十年は現状に近い状態で風雨に耐えるそうです。裏面には「新たな飛躍を期して」という言葉と揮毫者、資金を寄贈して下さいました野村同窓会長、高橋義宣先輩、本校関係者等を本校の野中淳先生（古高第三十九回卒）に墨書していただきました。野村同窓会長はじめ多くの同窓の皆様が熱意が凝縮された看板を掲げ、古高前進のため職員一丸となって頑張ります。どうか今後もよろしくお願

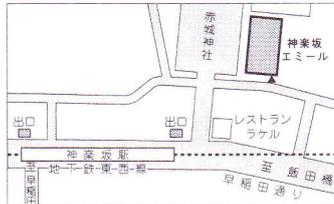
いいたします。尚、今まで、古高

お知らせ

平成12年度 在京古高同窓会定時総会

【日時】 平成12年7月30日(日) 14:00~17:30
【会場】 神楽坂「エミール」
【会費】 8,000円
【講演講師】 佐々木 一司氏(昭和22年卒) (講師紹介:5頁)
【演題】 「民族自決権について」

【交通案内】 地下鉄東西線 神楽坂駅 徒歩2分
有楽町線 飯田橋駅 徒歩13分
JR中央線 飯田橋駅 徒歩13分



神楽坂エミール 財団法人 東京都福利厚生事業団 〒162 東京都新宿区赤城元町1-3 -0817 TEL 03-3260-3251
ためになる話、うまい料理と酒！ みんなの参加で楽しい総会に。 総会案内は別紙です。

宮城県古川高等学校進路資料

母校の今

進路状況報告

進路指導部

今春の進路状況の結果がまとまりましたので報告させていただきます。

初めに大学関係をみてみますと、ここ数年の低迷状態を脱出すべく指導に取り組んできた成果がようやく結果となって表れてきています。昨年度と比較して具体的に見ていきますと、国公立大学の合格者が28名から44名(内、現役生では15名から32名)、私立大学では、例年志願者の多い東北学院大の合格者が59名から103名(内、現役生では36名から75名)の伸びとなっております、その他の合格状況についても表のような結果となること

平成12年入試合格者数

(延べ数)

国公立大学				私立大学				私立大学			
大学名	現役	通卒	計	大学名	現役	通卒	計	大学名	現役	通卒	計
北教大鶴岡校	1		1	石巻専修大	9	3	12	神奈川大			3
弘前大	1		1	仙台大	3		3	同志社大		1	1
岩手大	8	1	9	東北学院大	75	28	103	立命館大	2	1	3
東北大	3	2	5	東北工大	19	2	21	東京理大	1	4	5
宮城教育大	4	1	5	東北福祉大	11	2	13	東洋大	2	2	4
秋田大	1	1	2	東北薬大	1	1	2	日本大	2	5	7
山形大	5	2	7	東北文化学園大	3	2	5	法政大	3	3	6
福島大	1	1	2	文教大	6		6	明治大	4	2	6
茨城大	1		1	慶応大		1	1	明治学院大	1	2	3
筑波大	1		1	順天堂大		2	2	その他	72	48	120
宇都宮大	1	1	2	大東文化大	2	2	4	計	222	125	347
千葉大		1	1	玉川大	1	2	3				
富山大		1	1	中央大	2	1	3				
岩手県立大	1		1	東海大	2	1	3				
宮城大	4	1	5	東京農大		6	6				
計	32	12	44	早稲田大	1	1	2				

部活動の状況

生徒部

〈定期戦〉
2000年度の幕開け、4月28日(金)「若人春の陣」栄光輝く未来のため」のスローガンのもと、対築館高校定期戦が本校会場で行われた。
前日の降雨のため、屋外競技、開会式、閉会式の屋外での実施が危ぶまれたが、生徒、職員の懸命な整備作業により予定通り実施できた。
結果は、スタートである綱引き競技が2-0と圧勝し、その後の各競技もはずみがつき、6勝3敗1分けて3連覇しよ。

〈成績〉

- 野球 5-5 延長10回引き分け
 - ラグビー 5-12 負け
 - サッカー 3-1 勝ち
 - ハンドボール 24-18 勝ち
 - バスケットボール 50-63 負け
 - バレーボール 0-2 負け
 - 卓球 3勝2敗 勝ち
 - 柔道 3勝2敗2分け 勝ち
 - 剣道 7勝2敗2分け 勝ち
 - 綱引き 2勝0敗 勝ち
- 総合成績
6勝3敗1分け
古川高校優勝
- 通算成績
28勝10敗3分け
- 野球春季大会
Aブロック 5勝全勝
決勝 古川10-8 中新田
(3期連続優勝)
- 県大会
2回戦 古川2-7 仙台工
- 高校総体 (5月31日現在)
サッカー
1回戦 古川 1-0 白石工
2回戦 古川 0-2 仙台二
ラグビー
1回戦 古川 10-31 石巻
やり投げ
第6位 佐藤辰則(東北大会出場)
- その他の大会
○県選抜ソフトボール大会
決勝 古川4-6 白石工
○全国高校将棋選手権 宮城大会
団体 ベスト16
個人 A級 ベスト8 佐藤弘典(3年)
B級 3位 若松圭(3年)
C級 3位 浅野向(2年)

“喜びのソフトボール部”



野中淳監督(写真前列右端)紹介

昭和六十二年三月古川高校卒業。在学中はソフト部に所属し、クリーンアップを打つ。
前任校仙台商業高校では、平成四年度と五年度の二年連続インターハイへ出場している。
平成九年母校に監督として迎えられ、チーム作りに励み、今年度は完投能力をもつ二人の投手を中心とした守りのチームを育て、念願のインターハイ出場を勝ち取った。
クラブの指導と生活指導は表裏一体がモットー。ソフトボールの指導を通じて、全人教育を目指している。応援団の指導も行っている。
教科は国語、二年生担任。

蛍雪健児全国大会へ!

平成12年度 宮城県高等学校総合体育大会の速報

6月3日(土)・4日(日)・5(月)の3日間に渡って行われました県総体の結果を報告させていただきます。

インターハイ出場 男子ソフトボール

宿敵白石工高を4-3で破り、5年ぶりの優勝を果たし、8月の岐阜県で行われる全国高校総体へ出場することになりました。

東北大会出場

剣道 個人戦 3年生の村松と岩淵
卓球 ダブルス 3年生の矢島・小野寺組
以上が秋田県で開催される東北大会に出場することになりました。

吹奏楽部関係

2年生 芳賀 史徳君 優秀賞を獲得し、全国大会へ出場

宮城県管打楽器ソロコンテスト 3年生 大和田 雄太郎(クラリネット)金賞
東北地区管打楽器ソロコンテスト 3年生 大和田 雄一郎(クラリネット)金賞
2年生 芳賀 史徳(クラリネット)金賞・優秀賞
3年生 下屋 和巳(クラリネット)銀賞

同窓会だより

古高同窓会会長

野村 喜太郎



同窓の皆様、お変わりありませんか。暑中お見舞い申し上げます。会長の伊藤宗一郎先輩には衆議院議長、三権の長として敏腕を奮われ大任を果たされましたことに對し深く敬意を表します。今後も政治はもちろん母校並びに同窓会にご指導賜ります様お願い致します。

今年三月の卒業生の進学成績は近年になく良いと、校長先生を始め教職員一丸となって指導に取り組んでいる成果として喜んでおります。

東京蛍雪賞、奨学会、古高育英会卒業式には、在京同窓会より春田副会長さんにご参列いただき東京蛍雪賞を授与され、その由来を述べ先輩として入社試験への心構え等話され激励、そして祝福していただきました。早朝から遠いところ有り難うございました。

古高同窓会の事業に奨学会があり、予算十八万円で人物、学業優秀な生徒一学年一人に一ヶ月五千円の奨学金を贈っております。少額ですが生徒には大なる励みになっていと思います。今年度も五月三十日校長室に於いて保護者同席でお贈り致しました。また学校には財団法人古川高等学校育英

会があり、クラブ、部で成績顕著な生徒十名以内に贈り、クラブ活動の向上に努めております。

学校の表札

正門に掲げてある「宮城県古川高等学校」の表札が半世紀の風雪で墨痕極めて薄くなり字がほとんど消えてしまいました。この表札は(中47回22年卒小牛田町)の荒川直通氏のお父さん(中19回大正9年卒田尻町)の故荒川直一郎氏の寄贈したもので当時同窓会の役員であったと聞いております。表札を新しくすることで学校側と相談し、昨年末衆議院議長伊藤宗一郎先輩にお願い致し政務お忙しい中力作揮毫していただきました。縦66センチ、幅35センチの樺の板に彫刻、カシユ塗料の墨入れも五月末に終わり完成しました。六月に正門に掲げられる予定ですが、解散総選挙もあり、学校では日程を決めかねております。在京同窓会の総会にはキチンと報告出来ると思っております。



古高同窓会事務局

三月まで事務局長としてご尽力いただきました佐藤彰先生に代わり、狩野宏史先生にご委嘱致しました。

同窓会事務局長 狩野 宏史氏

昭和50年3月、古川高校卒業、野球部に所属。
平成6年4月、古川高校教諭として赴任。教科は数学。
現在、山岳部の顧問、一学年主任。

先生方は、校務・授業の傍らのお仕事大変なので学校側の配慮により事務局次長は複数制にしていたが、遠藤先生、菊地先生にお手伝いをいただくことになりました。会計、総務、会報、奨学会、名簿、叙勲、記念品、物故者、山林、百周年残務等の諸係を十二名の先生方にお手伝いいただき同窓会の運営を行って参りますのでよろしくお願ひ申し上げます。



平成12年1月の同窓会新年会

同窓会事務局だより

在京の同窓生の皆様、故郷を離れそれぞれの道でご活躍のこととお慶び申し上げます。私の住んでいる小牛田町では午後8時になりまして、町のスピーカーから童謡の「ふるさと」のメロディーが流れて参ります。曲に合わせて口ずさんでみますと、心に浸みるものがあります。司馬遼太郎の「故郷忘れじがたく候」の通り、故郷を

離るほど故郷への思いは募るのではないのでしょうか。同窓会本部の平成11年・12年度の役員は次の通りです。

会長	野村 喜太郎
副会長	高橋 亨
監事	佐々木 龍樹
顧問	大沼 康雄
参与	伊藤 宗一郎
常任委員	平野 一郎
委員	佐藤 経知
	高橋 光彦
	千葉 功
	佐々木 謙次
	菊地 厚太郎
	佐野 昭夫
	佐々木 茂
	小林 信之
	菊地 文義
	宮本 輝男

宗一郎先輩に講演をお願いし、両会とも100名を超える出席者を得て盛大に開催することができました。また、宮城県内の支部や県庁を始めたとする職場ごとの同窓会の活動も活況を呈しております。

平成12年度の同窓会事務局は、事務局の定年退職など同窓職員の出転が多かった関係で、古川高校勤務の同窓生は校長先生を含め17名と減少しました。しかし、少ないながらも全員一役以上を合言葉に頑張っております。また、「2000年版同窓会名簿」は「株式会社サラト」に発注し、11月の発行を目指して編集作業が続いております。ご迷惑をおかけしておりますが、改めて在京同窓生の皆様の御協力をお願い申し上げます。

同窓会には、「古川高校同窓会奨学生」という制度があります。これは、各学年ごとに「学業成績が極めて優秀であり、他の生徒の模範となる者で、将来に渡って活躍が望める生徒」に毎年同窓会より奨学金を贈っております。今年度も5月30日(火)下記の生徒諸君に同窓会会長から激励のことばとともに奨学金を授与いたしました。

予告

平成12年度 古川高等学校同窓会総会

日時 平成12年8月13日(日)

午後1時

場所 古川市内「グランド平成」

(文責) 平成12年度事務局長 狩野 宏史

東京堂雪賞

古川高校在京同窓会
平成11年度 生徒会活動顕彰者

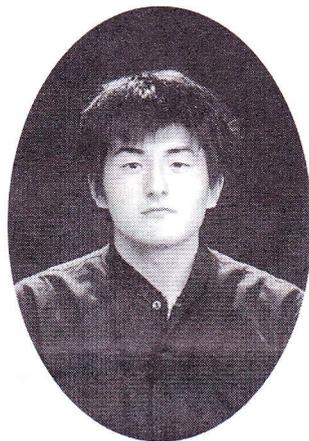


東京堂雪賞授与の様子（卒業式々場にて）

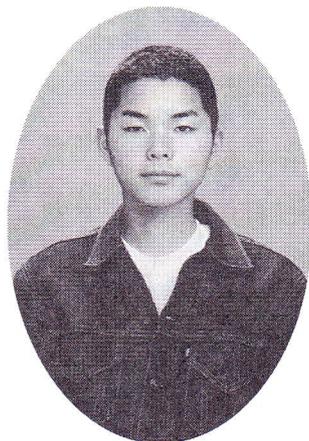
本会が生徒会活動・部活動優秀者を顕彰する「東京堂雪賞」は、本年第3回目となったが、本会を代表して春田副会長より、卒業式時に楡井通浩、山口崇、今野拓弥の三君に授与された。



推薦項目	生徒会活動（生徒会長）
推薦生徒	3年5組 楡井通浩（不動堂中出身）
推薦項目	<p>入学時より大学進学を目標に熱心に学習に取り組むとともに、部活動においても柔道部に所属し、文武両道の精神で努力を重ねてきた生徒である。2年次に、これまで活動を休止していた応援団の復活を公約に掲げて生徒会長に立候補し、多くの生徒の信任を得て見事当選した。その後、生徒会長として生徒会執行部をよくまとめ、『生徒会執行部としての応援団再結成のアピール』を全校生徒に向けて行い、生徒大会でも主導的な役割を果たし、公約通り応援団の再結成を成し遂げた。築館高校との定期戦や体育祭・文化祭などの学校行事においても、全校生徒の要として、奮闘した。</p> <p>純朴で誠実な人柄で古高の将来を考えて行動するので、生徒からの信頼も大変厚く、文武両道を自ら実践し、古高発展の基礎を築いた功績は大きい。</p>



推薦項目	運動部（ラグビー部）
推薦生徒	3年5組 山口崇（古川中出身）
推薦項目	<p>三年間その活動を休止していた古高応援団の復活後の最初の団長として学校全体の士気高揚に尽力し、また伝統あるラグビー部の主将としてチーム一丸となって戦うべく大いに統率力を発揮し、各種大会で大活躍した。さらに、クラスのリーダーとして体育祭でも級友たちの信望を集め、総合優勝の原動力として粉骨砕身の努力を続けた。正に八面六臂、縦横無尽の活躍した生徒である。その性は、純朴にして誠実、正義感に溢れ、言も行も爽やかな青年で十分推薦に値すると信じます。</p> <p>学習面においても、忙しいスケジュールの中をコツコツと粘り強く精進し、定期考査では常に上位に食い込み、一貫して七割以上の平均点でもって、その集中力、持続力の強さも証明してみせました。物事の筋道をしっかり考えていく思考力と、一度決断したら行動は迅速であり、いつでも全体にとって最良の選択は何であるかを捉える能力は抜群である。文武両道を地で行った古高生の鑑である。</p>



推薦項目	生徒会活動
推薦生徒	3年6組 今野拓弥（古川北中出身）
推薦項目	<p>応援団副団長として新生応援団活動をリードし輝かしい古高生徒会活動に貢献した。新生応援団長選挙に自ら立候補し、投票においては僅差で破れたが、志断ち難く、団長の下、副団長として春休みのリーダー練習会に積極的に参加し、一年生の応援練習には限られた時間の中、声をからしながらも、良くリードし、早朝練習、放課後の屋上練習、そして、リーダーの練習と我を忘れて古高のために努力した。</p> <p>定期戦においては、さすが古高といわれるだけの立派な応援態度で、築館高校を圧勝し、古高生はその応援活動に古高生としての誇りを敵地で感じる事ができた。この勢いで7勝2敗1分と圧勝し、凱歌を声高らかに歌い、素晴らしい充実感を古高生は共有した。</p> <p>本生徒は、真面目な努力家であり、学校推薦により大学進学が決定し、後輩への良き足跡を残してくれた。</p>

東京堂雪雪賞を受賞して

生徒会長 榎井 通浩

応援団長 山口 崇

この度は東京堂雪雪賞という名誉ある賞をいただき、まことにありがとうございます。この受賞を期として、さらなる飛躍と発展の決意を新たにしました。

さて私が生徒会長になりたかった、ならねばならなかった理由は二つあります。まず一つ目は、私の周りにいらつしやる偉大な古高OBの方々が「古高に行け、古高が一番だ」という言葉の深意を掴み取ったのと百余年の伝統を誇る古高の古高魂を自分が受け継ぎそして後輩に伝えたいという気持ちからでした。

二つ目は応援団が活動休止状態にあった事です。始め、私は、応援団長になろうと思いましたが、活動を休止している事を知り、なんとか復活できないだろうかと考えた結果、自分が生徒会長になって古高を改革していこうという気持ちになりました。活動を後輩に引き継いだ今、全ての疑問に対する古高生としての答えが、ぼんやりとはありますが浮かんでくることがあります。その時私は、校歌や囀歌を歌い出したくなってきました。今となってはこれが唯一の古高生の証です。

このような大きな経験をさせていただいたうえに荣誉ある賞をいただき、身に余る光栄だと思っております。これもひとえに私達を支えてくれた人々全てのためものだと思っております。あらためて御礼申し上げます。

この度は、東京堂雪雪賞という大変名誉ある賞をいただき有り難うございました。私は三年間文武両道を目指して頑張ってきました。それをこのような形で表彰していただいたことは、一生励みになると思っています。これを期に自分をよりいっそう磨いて行きたいです。

今私の高校三年間を振り返ってみますと、古川高校に入ったおかげでとても充実させることができました。古高での経験はどれもすばらしい思い出ですが、特に三つの思い出が私は強く残っています。一つは、私の三年間はこれを中心に生活していたと言っても過言ではないラグビーです。ラグビーではスポーツのすばらしさや全員で目標に向かってがんばるチームワークの大切さを学びました。二年生の途中からキャプテンを任せられたため、責任感の大切さも知りました。二つ目は、古高が圧勝した築高との定期戦です。私は応援団長として指揮を執り応援してみても、皆が一致団結すれば、その数以上の力を発揮できる事を学びました。そして、最後の一つは個人的な先生と生徒に囲まれて授業を受けたことです。決して、静かな授業だったとは思えませんが、一人一人が積極的に発言しやる時はやるというメリハリが自然に身についた授業でした。このように思い出してみますと、さまざまな人に支えられてきたものです。先生方やその他全ての人達にはとても感謝しています。本当にお世話様

最後に後輩へ。高校三年間はただ漠然と過ごしたのでは、たいしたことでもできずにあつという間に終わってしまいます。だから、何か目標を持って、失敗を恐れずにさまざまな事に挑戦してください。失敗も成功も糧となるから。

応援副団長 今野 拓弥

私は東京堂雪雪賞の授賞の知らせを聞いた時、喜びや感謝の気持ちよりも、「なぜ俺が……。」というような驚きの気持ちが溢きあがっていました。なぜなら、私よりも古川高校に貢献してきた生徒はたくさんいる、と考えたからです。思わず私は、授賞のことを教えてくださった先生に、なぜ私が古川高校で三年間学校生活を送ってきた者に対する MVP のようなもの、東京堂雪雪賞を授賞されるのか問い詰めてしまいました。すると、先生はこうおっしゃいました。「おまえは応援団副団長としてがんばっただろう。それが認められたんだよ。」

私は感激しました。しかし、それと同時に奇妙なもどかしさも感じました。それは、応援団の功績は私と団長だけによって成されたものではない。応援団幹部や一般の生徒の協力があつてこそそのもの。それなのに、私と団長だけが授賞されるとなると、とてもがらばつてきた友人に対して悪い気がする、と感じたからです。

このたびの東京堂雪雪賞の授賞について、私はありがたくいただくことと思っております。しかし、私の

授賞の裏には何人も友人や先生がたの温かい協力があつたことを知っておいてください。また、私としましても、多くの温かい協力のもとで一生懸命応援活動ができたという経験を心から誇りにしようと思っております。最後に東京堂雪雪賞の授賞、本当にありがとうございます。



佐々木一司氏プロフィール

昭2	古川市に生まれる
昭17	古川中学二年に編入学
昭18	海軍甲種飛行予科練習生入隊
昭20	除隊。古川中学へ復学
昭22	旧制二高(理科)入学
昭33	東北大学医学部入学
昭37	世界民主青年連盟日本代表としてブダペストに滞在
昭41	帰国
以降	日本共産党国際部
現在	社会科学研究所事務局長を歴任 日本共産党党員幹部会員 「社会主義と民族自決権」

2000年版同窓会名簿作成

平成12年11月下旬発行
予約頒価 4,000円
(送料・税込)

郵便番号「7ケタ」編集

拝啓 会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、本会では新たに会員名簿を改訂発行することになりました。今回の名簿は、郵便番号を7桁で編集発行いたしますので同窓生の方々やお世話になった恩師にお便りを出される時などお役に立つことと思っております。

つきましては、記載内容の確認と予約申し込みをお願いしたく本状をお届けいたしました。内容をご確認の上必ずご返信くださいますようお願いいたします。なお、名簿作成の事務処理ならびに印刷・発送は㈱サラトに正式に委託して行っています。この旨ご理解とご協力をお願い申し上げます。 敬具

宮城県古川高等学校同窓会会長 野村 喜太郎

●名簿の内容

収録者…恩師を含め、創立から現在までの同窓生と在校生約22,000名
掲載項目…氏(旧姓)名・現住所・勤務先・
規格…B5判、約720頁 特色…写真集・五十音順総索引付
予約頒価…4,000円(送料・消費税込)

●申込方法

上記の申込欄に必要事項を記入のうえ、調査カード到着後2週間以内にお申し込みください。後日案内状をお送りいたします。

●ご注意ください

本会とは関係のない業者が職業別名簿等の発行を企画し、会員の皆様にはハガキによる案内や販売を行うことがありますのでご注意ください。

古川市内四校合同新年会報告

第七回目となった今回は、一月三十日上野精養軒において三百余名の出席(本会は一一一名)のもと、盛大に開かれました。

本校が主幹事校となった今回は事業委員長を中心に企画を練り(第二四号詳細掲載)、「新春コンサート」の企画・構成を曾根研一さん(30年卒)にお引き受けいただきました。

音楽との出会い・・・
そして、新春コンサート
を終えて

30年卒 曾根 研一



清滝と西大崎の小・中学校時代は野球などスポーツばかりに明け暮れ、変声期をむかえた中学時代は、音楽の時間が大変苦痛だった。だが当時、自衛隊のパイロットだった実兄が、暮れに帰省する度にラジオで「第九」を聴いたり、チャイコフスキー、ベートーヴェン、ブラームス等のレコードを買ってきて聴いていたので、私もその頃から自然にクラシック音楽に慣れ親しんでいった。

又その頃ラジオで偶然、関西学院グリーククラブの「月光とピエロ」(男声合唱)を聴いて、身震いするほどの感動を受け、さらに古高一年秋の文化祭で古高合唱団が歌ったロシア民謡を聴いて、ますます男

声合唱の魅力に取られ、先年亡くなった同クラスの鈴木直哉君から熱心な誘いもあったので、古高合唱団の一員に入れてもらった。

西大崎と高清水で過ごした浪人時代は予備校には行かなかったのに、ラジオの受験講座と有坂愛彦氏が解説するクラシック音楽番組が深夜の友となった。

一浪後の明大で何となくグリーククラブ(合唱団)に入る。先輩や同期生にオペラ歌手やプロのコーラスグループ等、音楽の道に進むのが何人かいて、私もプロ合唱団のマネージャーとして進むことになる。

学生時代に知り合った連れ合いとは、やはりクラシック音楽が縁だった。渡邊暁雄指揮・日本フィル、岩城宏之指揮・N響のコンサートに行ったり、渋谷の名曲喫茶「ライオン」によく一緒に通った。

生まれた長女も幼少の頃から音楽が好きだった。私はその頃、日曜日はレギュラーで山本直純指揮のオーケストラ、中村八大のピアノ、立川清澄、佐良直美等の歌があったNHKテレビ「世界の音楽」のリハーサルに行っていたので、自宅を出ようとすると、時折、娘と一緒に行きたいと言って車に乗り込んで来た。NHKのスタジオでは、五階のロビーをよくカケッコしていたが音楽は静かに聴いていたので、あまり仕事の邪魔にならず、番組のプロデューサーとも顔馴染みになっていた。幼稚園に通う頃からピアノを習い始め、特別なレッスンもなかったのに、自然に「絶対音」が身に付いた。コップとか茶碗など音のでもものを叩くと、即座に階名(ドレ

ミ・・・)で当て、音楽を聴いてもそれを階名でなぞらえるのには驚いた。小学校五年生のとき「大きくなら音楽家になります」と作文に書いていたが、今ではフランスの「エラート」レーベルで五枚のCDをリリース、内四枚がクラシック部門のベストテンに入るまでになった。私に音楽を与えてくれた兄には、娘がベルギーの国際コンクールに入賞したことを病床に伝えることはできたが、CDデビューやステージ・テレビに登場するようになったことは知らぬまま、翌年五十七歳で早世した。

昨年の夏、佐藤事業委員長及び同窓会事務局から、合同新年会でコンサートをやりたいので何か企画をと請われたが、そのヒントになったのが、昨年三月古川で行われたフルートの相澤政弘君と娘のコンサートだった。主催の古川音楽鑑賞協会の友川君(古高31年卒)とは、古高合唱団と一緒に歌っていた関係もあり、私とその交渉の窓口になっていたので、当日は娘のマネージャー?として(所属事務所の許可済)同行した。会場は満席になり、娘のコンサートなのに庄司先生ご夫妻、野村同窓会長はじめ中学の同級生、古高の先輩等が見え、まるで私が主役の気分になって感激の極みだった。実際は娘は東京生まれなのだが、物心ついた頃から毎年正月は高清水で過ごしていたので、郷里でコンサートが実現できた事は、まるで凱旋公演の気分だった。

この事を逆にして、郷土出身の音楽家を首都圏の皆さんにご紹介してみてもどうだろうかと考え、あの様なコンサートを企画した。

一の音楽会とは違って、同窓会の一環としてのコンサートなので、クラシック音楽とは日頃無縁の方々にも楽しんで頂けるような内容を考えた。

この様子が二月十三日付けの「大崎タイムス」に掲載されたので、その記事を紹介すると、「古川市内四高校同窓会の新年の集いが開かれ、四校長のあいさつなどに続いて音楽家として活躍している同窓生の新春コンサートが開かれ、ピアノリスト・野間春美さん(古高63年卒)、東京交響楽団首席フルート奏者・相澤政宏さん(古高62年卒)、声楽家・成田博之さん(同)が演奏を披露、プロの演奏が聞けるとあって三百人が出席し同窓生の名演を満喫した。その後、四校の歌、佐藤公哉さん(古高32年卒)作詞、鈴木芳郎さん(古高27年卒)作曲「四つ葉の仲間たち」が初披露され、出席者全員で合唱。自然豊かな大崎の様子、故郷を思う心情がよく表現されているなど好評で、高校時代を思い出しながら口ずさんでいた。」

私の不慣れた司会ではあったが、終了後の懇親会で一応の評価を受け、安心感を得た。しかし、せっかく四校の集まりなのだから、それぞれ各校出身者の演奏家がいればもっと会は盛り上がったかもしれない。先の相澤君(涌谷出身)はじめ、ピアノの野間さん(古川出身)、バリトンの成田君(高倉出身)、そして、裏方をお願いした元・東京交響楽団のトロンボーン奏者で、現在同楽団事務局の金沢茂君(鹿島台出身・古高41年卒)の方々には、大変な忙しいスケジュールの中をご協力頂き、ここに

改めて心からお礼を申し上げたい。なお、私がクラシックを初めて生で聴いたのは、あの講堂で古高在学の時だったのだが、そのときのヴァイオリニスト・鷲見三郎氏は、昭和五九年に八十二歳で亡くなられた。そして、お孫さんの鷲見恵理子さんが三年程前、やはりヴァイオリンでデビューを果たされたので、私は高校時代のその想いを重ねる意味もあってチケットを買い求め、カザルスホールに足を運んだ。

最後に、この誌上をお借りしてお知らせをひとつ。新春コンサートに出演した成田君が、この秋十一月から約一年間、文化庁在外派遣研修員としてイタリアのポロニヤに留学することが決まった。それを祝って十月二十五日(水)に友川君のご尽力と古川音楽鑑賞協会の主催で「成田博之バリトン・リサイタル(仮称)」が古川の「生涯学習センター・パレット大崎」で開催される。そして、ピアノ伴奏は野間春美さん、それに賛助出演として相澤政宏君のフルートも入る予定。一月の新春コンサートの出演者全員が、今度は内容は変わるが、場所を郷里に移して演奏することになりましたので、お知らせの方々にPRして頂ければと思います。

成田 博之
バリトンリサイタル(仮)
10月25日(水)
古川市・パレット大崎

フルート
相澤 政宏

ピアノ
野間 春美

自由投稿

不思議なめぐり合い 古川市内四高校 関東同窓会「新年の集い」に参加して

40年卒 祇園寺 則夫

さる一月三〇日に久しぶりに上野駅に降りた。この駅には何か独特の味を感じる。東北への玄関口という思いがそうさせるのかもしれない。晴れ上がった気持ちのよい日であった。上野公園の中の一隅にある会場に着いたときには、すでにコンサートが始まっていた。出演者は、野間春美さん（ピアノ）、古高63年卒）、相澤政宏さん（東京交響楽団首席フルート奏者、古高62年卒）そして成田博之さん（声楽家、古高62年卒）。

四つ葉の仲間たち

作詞 佐藤 公哉
作曲 橋本 芳郎

はなはな ちゅう かわ がり たて しど けいこう うれい こと
れも 二 おお さか きの あら や は になら せす
おもい でのか わい わす れられ ない こがほの まら
（別またあ おう）（別またあいましよ）（別よつば）
よつば の 男の な か まー たち
Coda
ち

四つ葉の仲間たち

一、花湖・舟形 白雪薄れ
大崎平野に 春が来る
荒雄や鳥稚 思い出の川
忘れられない 黄金の穂波
また会おう

二、季節変わりて 時移れども
なつかしあの日 学び舎よ
友は変わらず 青春の日々
忘れられない ふるさとの街
また会おう

四つ葉の 仲間たち

作詞 佐藤 公哉
作曲 橋本 芳郎

このうち、相澤さんの演奏を聞くのは二度目である。昨々月に古川に帰省した折、生涯学習センター・パレット大崎で開かれたチェンバロ奏者曾根麻矢子さんのデュオリサイタル「チェンバロの夕べ」を聞いていたからである。そのとき、曾根さんが演奏の合間の話しの中で、父上が高清水？の出身で、彼女自身も何度かその地を訪れたことがあると語っていた。この曾根さんの父上というのが、「新年の集い」のコンサートの司会を務められた東京混声合唱団事務局長である曾根研一先輩（古高30年卒）だった。

無償の愛

41年卒 小杉 誠輝

無償の愛ってあるんだろうか。お金が無くて困っている人、体が不自由で困っている人、病気で困っている人、親が居なくて困っている人、いろんな事で困っている人がたくさん居ると思います。そんな人達に力を貸してあげると、愛の手を差し延べてあげたいと、多くの人が考える事だと思います。お金をあげる人もいましょう。

三一会（昭和三十一年卒業）

古高三十一年卒の同期会を去る三月十八日（土）ホテルニュー神田で開催しました。出席者は、二十名でした。遠方より長井様（古川市）、佐沢様（古川市）の二名が出席されました。平成六年より毎年続いており、一年ぶりに元気な姿を見、近況等賑やかに語り合い、楽しい一時を過ごしました。十二時より始まり、二次会、三次会まで延長し、再会を期し散会しました。来年も三月頃に予定しております。皆様方の参加をお待ちしております。

萩沢 法雄



物 上げる人もいましょう。何か手伝ってくれる人もいましょう。しかし、その人達は本当に何も期待とか望まないのでしょうか。経済的に裕福であるとか、時間的に余裕があるとか、自分自身にとって影響の無いことであれば報酬などいらないでしょう。しかし、そういう事って本当の無償の愛なのでしょうか。それは、自分のことを顧みず、自分を犠牲にしてまでも、他人のために尽くすことが愛なのでしょうか。私はどちらも、正しいと思います。但し、愛は多くの人に公平に捧げるべきと考えます。そして、永く続ける物と考えます。何事も自分の生活があつて、そして人の事を考える。決して名譽とか見返りを求めてはいけません。愛とは常にそうあるべきと思う。そうすれば、こちらが望まなくても何等かの形で返ってくるのではないのでしょうか。

個人広告

暑中お見舞い申し上げます

本年春古高昭32卒の新市長誕生。七日町繁華街の復活を願うは私だけか。シャッター通りよ、さようなら！

昭30卒 渡辺 吉郎

二十一世紀の同窓会について、ご意見募集中心！

E-mail: boonchai@ndd.space town.ne.jp.
昭41卒 小杉 誠輝

「このゆびとまれ」
日本最大(?)の同窓会サイトで全国の小学校から大学等まで網羅されています。ちなみに、私の出身である小牛田小、小牛田中もちゃんとあります。みなさんも覗いて見て下さい。

アドレスは <http://www.yudhoma.sphere.ne.jp/>
昭55卒 亀井 明

会員による自由投稿

古高が

感謝されなくなった理由

亀井 明 (55年卒)



在京古高同窓会に関わって数年になるが、諸先輩方の古高（旧制古中）への思いと、私の中の思いとのギャップがものすごく大きいと常々感じていた。同窓会の今後を考えると若い世代に加わってもらわないと、会の存続が危うくなるという危機感はある。「若い世代は単に忙しいから同窓会に来ないのではない、古高に対して何も感じていないから来ない。今の若い世代が年をとったとしても、やはり同窓会には来ないだろう」と私がいつても、昭和30年代卒業以前の先輩方には何のこともピンとこないらしい。存続のためには、若い世代が古高に何も感じていないことを前提として、今後の活動を魅力あるものにしていく必要がある。そのためには若い世代が古高に対して抱く思いがなぜ諸先輩方と違うのかを、世代間で共有する必要があると感じている。そのためには、原因について仮説を立て、検証していく作業が必要であろう。

仮説としては「古高で、大学に合格できるだけの十分な教育を受けられなかったので、若い世代が古高に世話になったと感じない」ということをあげてみたい。私が古高を卒業したのは昭和55年というところでちょうど20年前のことになる。当時大崎地方の進学校として揺るぎない地位を占めていたわけだが、その頃から大学入試の結果は芳しくなくなりつつあった。その後決定的な苦境に陥ってしまったらしいが、なぜそのようなことになったか、三つの時期に分けてその原因を推察してみた。

第一段階

昭和30年代末、40年代始めにかけての時期で、中学校卒業者が全国で大幅に減少した時期である。具体的には昭和30年代後半は全国の中学卒業者が20万人（第一次ベビーブーム）だったのが、昭和40年代始めには約170万人に減少した。この間古高のクラスは6クラスから8クラスに増えたままであった。このことは簡単にいえば8クラスのうち、6クラス時代と同じ質なのは上位3クラス分だけで、残りの5クラス分の生徒はそれ以前には古高に入れなかったレベルということである。約10年の間に生徒の質の分布が決定的に変わってしまったわけである。教師サイドでは、だんだん生徒の平均的な質が低下してきたことを肌で感じていたはずにもかかわらず、この時点で分析と対策が学校側になかったようだ。質の低下を教師側が感じていなかったはずはない。もし感じていなかったとすれば、自分の授業が理解されているか

感じ取る能力が足りない失格教師ということになってしまふ。そのような教師が多数いたとは考えにくい。

第二段階（入学昭和40年代）

定期テストレベルの低下
教師サイドではなんとなく生徒のレベルが低下してきたことを肌で感じていたものの、特に対策はなかったわけだが、地域の中学卒業生数の減少にもなつて、入学はしたものの授業についていけない生徒が明らかに多くなつてきたはずである。ここで、知らず知らずのうちに、生徒への到達レベルの要望を切り下げたのではないかと推察ができる。なんのことはない、生徒の平均レベルの低下に合わせてテストのレベルを落としたということである。これなら赤点者の補習も減るし、教師にとつて一番簡単な方法であったはずである。

・卒業時のレベルの低下による現役合格者減少
そうすれば、当然、大学合格に必要なレベルからは乖離してくることになる。ただでさえ、生徒の素質が低下しているのに試験のレベルを落としたのでは、合格に必要なレベルに到達できる生徒の数はほとんど減少するだけである。つまり素質の低下と試験レベルの低下が現役合格者減少を招いたわけである。しかし、現役合格者の減少は入学時レベルが低下したこと、また生徒が以前ほど勉強しなくなったからというふうに教師側は思っていたのではないか。

・予備校の意義が増大（相対的な古高の教育に関する信頼性の低下）

そういった、現役合格者の減少は外から見て、「古高の勉強では大学に合格できない」または「予備校で受験勉強しないと大学に合格できない」という風に写るようになる。古高のそういった情報が親戚や兄弟からもたらされ、既に入学時に浪人を決め込んでいる生徒がでてくるといった事態を生むことになった。予備校が本場の受験勉強の場であると考えれば、必然的に普段の学校の授業を軽視する風潮が生まれる。つまり「古高の授業は受験に役立たない」「受験に役立たない勉強は一生懸命やってもあまり意味がない」といった思いこみにつながり、生徒はどんどん勉強しなくなつていった。

・自主性の過大な尊重
また、40年代半ばの学園紛争のあおりで、「生徒の自主性尊重」が建前として前面にでてきて、教師側があれこれ勉強のことで口をださないようになった。学園紛争という新左翼運動に対して学校内に共感を持っていた教師が多かったためだ。教師側からすれば、そういった運動に乗っかって、勉強を生徒の自主性に任せ、大学に合格するかどうかは生徒の自主的な勉強の問題で、教師側に責任はないということにしてしまった方が楽だったからである。こういったメタリテイの元になったのはおそらく「組合」の存在である。

こうして教師側は衰退から立て直す責任を結果的に放棄してしまつた。

こんな中でも教師サイドは特に危機感を持っていなかったようだ。県内でも有力な進学校としての地位は保たれているように見えた

からである。そのポイントは現役合格率ではなく「東北大学合格者総数」である。この数が減らない限り、古高の進学校としてのプライドは保つことができたわけである。ただし、それは予備校に多くを依存していたわけだから、進学校としてのプライドとはいっても既に砂上の楼閣であつたわけだ。

第三段階（入学昭和40年代末）

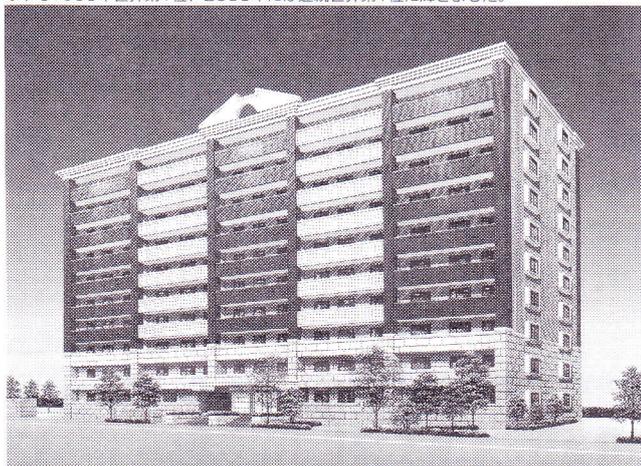
すくなくとも私自身が古高に入学した昭和52年にはこれらの衰退のパターンは既に完成して、もうずいぶん前からそうだったような雰囲気であつた。

この頃は、既に古高は〇〇予備校の予備校といわれていたほどで入学時には予備校を決め込む人間が多数いたような状態だった。また、授業への信頼感はなく、高校で勉強しようと気合いを入れていた人間は少数だったようだ。普段の学校の勉強は受験とは別もので、はつきりいつてやってもやらなくてもいいようなもの、という雰囲気さえあつたと思う。とにかく予備校で勉強すれば、古高で何もやらなくても大学に合格できるような錯覚に陥っていた人間がたくさんいた。卒業時、既に浪人するものが決まっついても特に暗さはなく、受験に関係のない勉強から解放される日でもあつたのだ。

こうして昭和40年代後半以降、古高に世話にならなかつた（と感じている）卒業生が多数を占めるようになっていった。

*こうした一連の流れの中での生徒側の問題点については筆を新たにしたい。

Century21ハウジングセンターは、世界30ヶ国 6,500店(世界最大)のCentury21加盟店の中で1999年世界第1位、2000年には連続世界第1位に輝きました。



「グランドベイ横浜」



100m² Leading Company

ハウジングセンター

株式会社ハウジングセンター
〒154-0005 東京都世田谷区三宿1-13-4

☎03-5430-0021

センチュリー21の加盟店はすべて独立・自営です。

[1998年度] 世界総合第1位・日本総合第1位
[1999年度] 世界総合第1位・日本総合第1位
設計/一級建築士事務所東京都知事登録第42734号
建設業/東京都知事許可(特-9)第107899号
宅建業/東京都知事免許(6)第41620号
社団法人宅業業協会の会員
古高47年卒 代表取締役 小嶋 進

北日本海事株式会社

船舶売買・水産貿易・建設、不動産

副社長 錦戸正継

(昭和37年卒)

〒986 宮城県石巻市松並1-4-23

-0028 TEL 0225-93-1771

FAX 0225-94-7610

E-mail nomco@iss-net.ne.jp

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士



ISO (品質・環境)・技術・経営

コンサルティング・グループ

株式会社 経営技術機構 所属

〒221 横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノエイト 100-11階
-0031 TEL 045-451-2561 FAX 045-451-2490

自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-2-19

FAX 045-953-3894 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

子供は未来の宝、大きく育てよう

福祉・子育て相談 (秘密厳守)

いつでもどうぞ!!

社会福祉法人 エスオーエスこどもの村

理事長 佐々木武麿 (昭和35年卒)

〒193-0841 東京都八王子市裏高尾町991

TEL 0426-61-8733 FAX 0426-69-5032

税理士 青沼康男
不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805

-0014 TEL 03-3452-2004

FAX 03-5476-8006

“人と企業の絆を求めて!! アウトソーシングを
支援する”
パルスタッフ株式会社

代表取締役 渡邊道雄

会長

S28年卒 (鹿島台町)

本社 東京都杉並区高円寺北1-4-10

TEL 03-5343-5821

E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

立川営業所 (042-528-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791)

「神の国」・・・「お上の国」・と言ったのだ 驛理

積水工業株式会社

空調・衛生・電気工事

S28卒 取締役会長 金子 康

本社 目黒 (03)3793-5711 仙台支店 (022)235-7009

ケーヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。

文書・図面・写真・音声・映像を簡単にCD-ROMにします。

データベースの入出力・活用 デジタル変換

コピーサービス 総合印刷 CAD入出力

文字情報入出力 プリペイドカード



データベース作成支援 完成図書・総合複写/印刷
株式会社 ケーヨー

代表取締役社長 早坂清吉 (昭和29年卒)

本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191
横浜支店・千葉支店

くすり、健康食品のご相談は
ぜひ当店へ!

有限会社 筑波薬品

代表取締役社長 萩沢法雄 (昭和31年卒)

〒202-0022 東京都保谷市柳沢3-2-45

TEL & FAX 0424-61-9334

在京古高同窓会の近況について

副会長 春田 絢輔

今年の総会を迎えるにあたり、会の近況が今迄にない動きをしており、簡単には御報告申し上げたいと思います。在京同窓会は、公称千八百人余の会員を有し、年二回の会報「蛍雪」を発行し、古川市内四校の新年会と七月の総会を開催するなど同窓会支部としては、多彩かつ活発な活動を維持してきております。

会の活動は、私の知る限りでは、昭和三十年代の北浦太一会長から、半田会長、高橋(陽)事務局長、伊藤会長、青柳事務局長を経て片平事務局長、佐藤事務局長と継続して今日に至っております。その中で、会のはほとんどは、事務局長専任となり事務局長が要として運営されて来たと言えます。例えば年間に少なくとも、二回千八百人の会員に会報と案内状を送付する仕事だけをみていただいただけでもお分かりいただけると思えます。

ところで今般その要である事務局長の佐藤廣氏が、四月から多忙な仕事に就かれるというので会の実務を辞任させてほしいという申出がありました。会としてもこれは止めるわけにいかないのです。目下大変な事情にある訳であります。次に、そうしたところに二十数年來会長として会の今日を主導し、我々のシンボルでありました伊藤宗一郎会長が種々の事情から辞意を表明されました。遠山副会長と私とで御留意されるよう再三お願い

い致しましたが、辞意は固く、やむを得ないものと判断致しました。こういう緊急な事情を受けて、五月十九日役員会を開催し、いろいろ議論を交わした結果、この際、会としては、全役員総辞任し、新体制を組んで、会務の簡素化と財務の建て直しを図ることをするとで一致しました。新体制の発足は、正式には七月総会で承認されてからということになります。会務は止めるわけにいきませんので暫定的に新会長に高橋淳夫氏、副会長に春田絢輔だけを決めさせていただきました。なお、実務は、事務局に財務担当責任者に菅昇氏、会報編集責任者に千坂孝夫氏を充てることと致しました。いづれにしても急な話でありましたので、他にもいろいろ御意見はあることと思いますが、七月総会を乗り切るため、緊急措置を必要とした訳でもあります。次に、今迄会員として各種御案内を送付しておりました方々のうち、約半数の方々からは何等の反応もないのが実情でありました。財務事情も考慮のうえといたしたく考えております。会報第一号が発刊されたのが一九八八年ですから、今年で十二年目を迎えます。これからの会員の皆さんの御協力をいただきながら、会の発展に向けて努力致したく考えております。

故郷の発展にお力添えを!

- 企業誘致 ●地場産品販路拡大 ●ネットワーク強化 ●情報受発信

古川市東京事務所

所長 佐々木 豊 (S43卒)
副所長 藤本 重吉 (S50卒)

台東区上野1-18-11 西楽堂ビル4F (上野松坂屋南館向き)
TEL 5818-6432 FAX 5818-6431

「よくわかる環境問題」 発刊

定価1600円

出版社 (株)コスモトゥーワン

TEL 03-3988-3911

税理士 渡辺 三男 (昭和18年卒)

〒123 東京都足立区西新井本町1-16-12-510

-0845 TEL 03-3896-2707

FAX 03-3896-2284

送信者: 小杉 誠輝 <boonchai@mdd.spacetown.ne.jp>

件名: アンニョンハセヨ

同窓会については、新たな考えで、二十一世紀に向けて頑張ります。私は以前、ある行政にたいして、故郷のピーアールの為に情報発信地および故郷出身者の溜まり場として、故郷の地酒、おいしいもの、特産品を食べて飲める居酒屋を作ってはどうかと提案したことがあります。しかし実現されませんでした。そこで、古高同窓会の事務所兼飲み屋を、誰か同窓生の中で飲み屋をやっている人と提携して作ってはどうか。世はまさに不景気です、一杯飲みたくても高くておいそれといけません。家で飲むも結構ですが同窓生の溜まり場があり、そこで、いろんな話をして情報交換して人生やビジネスチャンスを広げることができたらどんなにか良い事でしょう、そして同窓会が発展したら一石二鳥じゃないですか。まあ、無理かとおもいますが、もしかしたらそんな時代がくるかも知れません。また、夢のような話になりましたがどうぞ聞きながして下さい。大変失礼しました。ポーンチャイコスギヨリ

件名: 未来の会報

伊藤会長、佐藤事務局長、長い期間有り難うございました。

今後は新体制で同窓会を存続していきましょう。しかしながら、会報の発行と発送、名簿の作成、会費の徴収と同窓会の仕事は大変です。そこで、考えたのですが、世はインターネットの時代です。買い物、銀行、新聞、郵便等々あらゆる事に利用されています。我々同窓会においても、インターネットを利用してはいかがでしょうか。ホームページを開設して会報を作成、会員がいつでも見ることができ、また掲示板で行事の案内や会員からの意見を投稿してもらおう。たくさんの方からアクセスしてもらいコミュニケーションができる。そうすれば、会報の印刷や発行をしなくて済む、名簿の作成も必要ない、会費の徴収も簡単、その他たくさんメリットがあります。パソコン購入費用、通信費用などはいままでの印刷代や郵送料等でおつりがきます。ただし、問題があります。それは全会員の何人がパソコンを持っているかです。そしてパソコンを置く所は、扱う人はどうするかです。近い将来、インターネットはパソコンだけではなく携帯電話、テレビ、ゲーム機器等でもできるでしょう、そして全ての家庭に普及するでしょう。今のところ時期尚早ですが、考えてみてはどうでしょうか。若い会員がたくさん参加できる、魅力ある会にしましょう。その救世主がインターネットと考えます。

編集後記

蛍雪第二十五号をお届けします。春田副会長の会の近況報告のとおり、本会は今、一つの転機に直面しています。伊藤会長の辞任、運営面における事務局長の空席、財政面での通常赤字(故片平事務局長時代の貯えによる支え)。そんな中において「会報」へ注がれる目もきびしくなっております。「作業が大変」という同情論は大変ありがたいのですが、会費徴収の対価としても、年二回の提供は必要と思っております。会員の方々からの企業広告での協賛により会報印刷費をペイすることが理想。(この点におきましても、常連の方に感謝すると共に、新規のご協賛を切にお願いしたい!)

依頼、投稿原稿ともバラエティ豊かで読み応えのある紙面にできあがったと思っております。読者の感想をお聞きしたいものです。名簿は、本校での作成と併せ、本会でも二千八百余名の名簿を整備中であり、会報と併せての総会案内の返信用葉書は是非投函下さるようお願いいたします。世はまさにIT革命の時代。インターネット・ホームページの普及により会報や広報のあり方も一大転機を迎えることでしょう。

夏休みは昨年引き続き、七月初めの九日間。会報発送を終えれば残り八日間。北海道と思えば、今年は残雪深し。南の百名山のいくつかを回ることにしよう。皆様も良い夏を。(千)